

タイに到着したその日に、アドベンチャークラスのディレクターのみなさんとシーフードレストランへ。



坂でアクセル全開時速5km、派手な黒煙を噴いての走行でした。スタート初日から5日後のゴールがまったく見えなかったワタシたちは「俺らのラリーが始まったな〜」と、最初から大笑いでした。

次の日の朝にはクルマを治してもらい、無事スタートを切ることができました。ところが冷房が効かないこのクルマ。この暑い地で少し途方に暮れながら、窓を全開にSSの砂ぼこりを浴びながら毎日浴びるシャワーの水が茶色い事態に、「タイの空気を十分に味わえていいよね!」なんて言いながら、こんな状況を楽しんでいました。

アドベンチャークラスは、ディレクターとともに数台で一緒に走行します。ラリーカーの観戦ができたり、SSの体験ができたり。SSのコースは一般の観光ではまず行かないようなジャングルの中や、壮大な畑の中や村を抜けたり、時には観戦に来ている多くの村人たちと仲良くなって一緒に応援したりと、すべてのことが新鮮でした。お昼には現地の人が行かないような食堂に連れてってもらい、現地の人とのふれ合いを楽しんでいました。

希望すれば観光もできますが、今回のアドベンチャークラスのメンバーは全員がラリーを楽しみたい! という人ばかりだったので、観光はせず一日中SSを楽しみました。ラリーコースや村に足を踏み入れるだけで、十分な観光でした。

アドベンチャークラスといえど、やはりレース魂を持った人が多いので、みんながウズウズしてきた結果、仲間から「コマ図を見て、みんなでそれぞれ走ってみよう!」という提案ができました。私たちが楽しんで毎日を通るよう気にかけてくれるディレクターの方も、私たちの提案を快く受け入れてくれました。

選手のように、各車2分おきにスタートし、



タイ-カンボジア国境にて。国境を歩いて渡る瞬間を記念撮影。こんな経験、なかなかできません!

コンペティター同様、クルマにゼッケンを貼れば気分はレーサー気分! このクルマでカンボジアまで走ります。



コマ図だけを頼りに全速力で走らせてもらうのです。とはいえ、やはり迷子になってはいけませんので5kmだけ。それでも迷子になるクルマもあったり、その後の合流を楽しんだり、とっても貴重な経験ができました。

だけど! ディスカバリーは故障との戦いでした。どこかが壊れては、次の日の朝には治ってスタートする毎日で、毎朝が感動でした。每晚遅くまで治してくれている仲間がいるのです。

私たちはタイ生まれのこのクルマを「タイゾー」と名付け、タイゾーと一緒にゴールするのを目標に可愛がるようになりました。

カンボジアに入り、次の日がラリーのゴールという時、ついにタイゾーのエンジンが止まってしまいました。タイゾーと一緒にゴールすることを諦め昼食を取っていると、現地の整備士さんがちょいちょいと治してくれ、引き続きの走行が可能となりました。この時ばかり、ワタシたち3人は涙をこらえていたと思います。いや、こらえ切れない人も…(笑)。

アドベンチャークラスの仲間たちも心配し応援してくれる中、無事アンコールワットにゴールすることができました。タイゾーが故障のない元気なクルマだったら、私たちはタイで始めて会った仲間たちとこんなに親しんだり、アンコールワットでの走行をあれほど感動することはできなかったと思います。

そんなタイゾー物語があった中、選手たちがあの過酷なレースを終えた後のセレモニーに立ち会えたことはとても光栄でした。レースにリタイヤしゴールができなかった選手は、この場に来ることはできません。

青木拓磨選手は最後のSSでのクラッシュで目を覆いたくなるほどクルマが大破していても、諦めず強い気持ちを持ってゴール



1日のレースを終えたチームトライアングルの平賀選手を労わるアドベンチャークラスの面々。

スタートする選手たちを大声援で見送るアドベンチャークラス。選手たちもこの応援に励まされたとのこと。



しています。選手やサービスがひとつになって翌朝のスタートを目指してクルマを万全な状態に準備する毎日があって、このゴールがあります。我らがトライアングルチームはレース中、自分たちの結果を省みず哀川翔選手のクルマを牽引で救出し、哀川選手も、トライアングルチームも笑ってゴールを迎えています。

こんな素敵なレースをリアルタイムに、しかもこんな間近で感じることができるこのアドベンチャークラスに、本当に感謝しています。

トライアングルレース同様、チームワー



クがないと成し遂げることができないこのアジアンラリーは、トライアングルの醍醐味を知っていれば誰もが魅了されるレースだと思います。

夢のような旅を終え、帰国してから深い余韻に浸っているのも束の間、アドベンチャークラスに参加したガレージモンチのメンバーは、その余韻をエネルギーに変えて来年は選手として出場することを考え、取り組み出し、すでに次の夏に向けて目がギラギラしています。

ワタシたちをそんな気持ちにさせてくれた今大会に関わるすべての皆様、本当にありがとうございました!



ここはカンボジアのSS(競技区間)。アドベンチャークラスもコンペティターと同じ道走るのです。